暁子29歳。川口太陽の家・工房集（しゅう）で。仲間のKさんと

直久37歳。ソフトボール投げで全国障害者スポーツ大会（和歌山）に出場

動に参加し学習や交流を重ねるうちに、仲間たちと一緒に暮らしたい、と「新しい暮らし」を希望しました。直久も、学生時代に寄宿舎生活を経験し自立へのイメージをもっていたので、同じく入所を希望しました。「はれ」は、「仲間たちが今まで築いてきた活動や人間関係の継続を大事にしよう」と話し合ってできた施設なので、安心して自立への一歩を踏み出すことができました。

「はれ」は、6つのユニット（1ユニット6～7人）がそれぞれ家のように独立し、小規模のゆったりした暮らしです。日中は、今までやってきた織りや絵画の仕事を続けることができ、自分らしい生活の支えになっています。暁子は不安な仲間がいるとそばに行って寄り添い、優しい一面を見せているようです。直久は気の合う仲間と、自分たちの生活を楽しく工夫している様子です。今、家族それぞれが、自分の時間、空間、暮らし方をもっていて、ちょうどいい距離感、関係が保てていると思います。夫との会話は、いつも娘や息子の話になります。子どもたちと一緒に歩んできて、私と夫はたくさんの贈り物を二人からもらったと思っています。

＊

私の周りには、グループホームや入所施設での暮らしを望んでいても入れない「待機者」がたくさんいます。どんなに障害が重くても安心して暮らせるように、暮らしの場の整備の運動をみんなで進めていきたいと思います。

（あだちと一緒　さなえ）

ともに歩んだ20年

障害者支援施設「はれ」施設長　**黒田 徹**

今から20年前。私が川口太陽の家に勤め始めた時にちょうど直久さんの担当になったこともあり、普段の活動以外にも直久さんとはよく一緒に外出に行ったり、暁子さんや足立さんご夫妻とは一緒に陸上の練習や大会などに行かせていただきました。まさか、20年後に入所施設で一緒に生活をしているとは本当に信じられませんでした。

はれでの生活も1年半が過ぎました。暁子さんや直久さんもこれまで川口太陽の家でおこなってきた表現活動（織り、絵画）を継続し、環境が変わっても、毎日仕事に向き合う暁子さん、直久さんの姿からは安心とともに、これまで培ってきた働くことの力、大事さを強く感じています。

また、暮らしの場面では、一緒に暮らす仲間たちとともに生活をつくっているようです。直久さんは夕食後のテレビのチャンネル争いで譲ったり引かない姿があったり、一緒に食事を囲む仲間のことを気にかけてくれています。暁子さんも同じユニットで暮らす仲間に納得のいかない思いを職員と一緒にゆっくり伝えたりと、二人とも共同生活のなかで少しずつたくましく成長している姿があります。